

北海道医療新聞

4月29日
2011年・1877号
毎週金曜日発行
年間購読料19,000円
(前納/税・送料込)

発行所
株式会社北海道医療新聞社
〒060-0042
札幌市中央区大通西6丁目
(北海道医師会館)
TEL 011(221)7777
www.medim.co.jp

頭痺 喉麻

HSVで検査



研究成果を報告したシンポジウム

電気刺激や筋肉再生

新治療法研究報告も

喉頭科学会シンポ

第二十三回日本喉頭科学会総会・学術講演会(会長・原渕保明旭医大耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座教授)が旭川市で開かれた。シンポジウム「新しい喉頭麻痺治療への translational research」では、原因疾患が多岐にわたる喉頭麻痺が一側性と両側性に大別され、発生する障害は異なる中、高速ビデオ撮影(HSV)を用いた客観的な検査法や、電気刺激による機能回復といった新しい治療法開発の基礎研究動向が報告された。

日大の牧山清准教授が紹介したと紹介。位相差については、HSVによる声帯検査は解析ソフトで客観的評価ができることから、「H検査を取り上げ、ビデオ評価できることから」「H所見と解析結果から判断し、声帯筋内に加えライソケ腔へアテココラーゲン注入したところ、声門閉鎖不全や位相差が改善する肝細胞増殖因子の応

入部位、経過観察に有用とアピールした。声帯内脂肪注入術に対する肝細胞増殖因子の応

間葉系幹細胞を損傷した喉頭筋に移植する筋肉再生実験を、田附興風会医学研究所北野病院(大阪市)の金丸眞一部長が

高松赤十字病院の本吉和美医師は、神経栄養因子のbFGFを、顔面神経麻痺患者二十六例に局所投与したところ、従来法の亜急性期減荷手術や保存治療より治癒率が高かったという。至適濃度や投与期間など十分な検討を進めた上で、「有用な治療法になりえる」と強調した。

旭医大の國部勇講師は、麻痺した喉頭に電気刺激を与えて声帯運動を誘発させ機能回復を図る「機能的電気刺激」の動

用について、久留米大の梅野博仁准教授が報告。動物実験で声帯内に注入する脂肪にFGF産生非増殖型アデノウイルスベクターを混入した結果、「脂肪の自然吸収が抑えられ、脂肪の生着率が改善した」とし、臨床応用への発展に期待を込めた。

旭医大の國部勇講師は、自家移植群では披裂軟骨の外転を認めたものの、他家移植群では効果が見えず「細胞移植が拒絶された可能性」を指摘した。

旭医大の國部勇講師は、自家移植群では披裂軟骨の外転を認めたものの、他家移植群では効果が見えず「細胞移植が拒絶された可能性」を指摘した。

旭医大の國部勇講師は、自家移植群では披裂軟骨の外転を認めたものの、他家移植群では効果が見えず「細胞移植が拒絶された可能性」を指摘した。